

遺跡紹介

龍間城跡（たつまじょうあと）

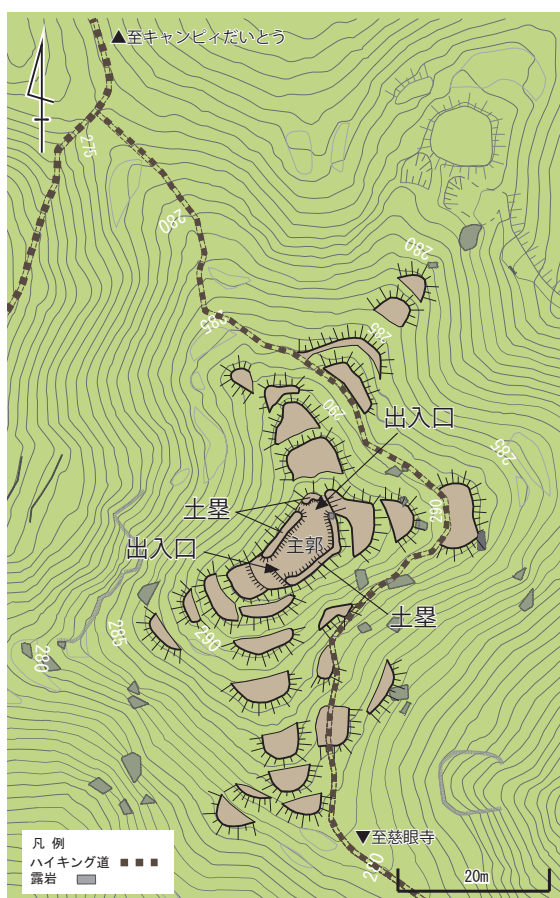
飯盛城跡の南方約 500m に位置する標高 294m の山頂を中心に築かれた飯盛城跡の支城跡です。

城域は東西約 50m、南北約 80m を測ります。山頂に主郭に相当する曲輪を築き、そこを中心に放射状に曲輪を配置しています。曲輪は尾根上に構えられており、自然地形を利用して造成したものと考えられます。確認できる城郭遺構は曲輪と土塁のみです。土塁は主郭に築かれており、土塁が途切れる箇所は曲輪への出入口と考えられます。



位置図

地理院地図



龍間城跡 遺構図

龍間城跡で発掘調査は行われていませんが、城跡の南東側山麓に位置する大阪桐蔭高等学校の野球グラウンドの造成時に行った発掘調査では、15～16世紀前半の土師器皿・羽釜・瓦質土器火鉢・瀬戸美濃焼の皿などの土器や陶磁器が出土しています。出土地点から龍間城跡までの間で城郭遺構は確認されなかったため、山麓に居館などの城郭関連施設があり、それに関連する遺物と推定されます。

龍間城跡はその規模から在地土豪の城として、木沢長政が飯盛城を居城とした時期（天文5年[1536]～12年[1543]）に築かれ、飯盛城南方の拠点として機能していたと見られます。三好長慶が飯盛城に入城した永禄3年（1560）にも南方防衛の一拠点として再利用され、飯盛城が城郭としての機能を失う永禄12年（1569）頃に廃城となったと考えられます。



龍間城跡 東から主郭方向を望む



- 1 天目茶碗
- 2 瀬戸美濃 皿
- 3 瓦質土器 火鉢
- 4 瓦質土器 火鉢
- 5 瓦質土器 火鉢

大阪桐蔭高等学校野球グラウンド造成に伴う発掘調査で出土した遺物